

# く ら ふ と

## 県育協だより

発行  
鳥取県子ども家庭育み協会  
広報委員会  
第20号

## 子ども・子育て支援新制度とこれからの保育制度

鳥取県子ども家庭育み協会 会長 大橋 和久



来年4月から始まろうとしている「子ども・子育て支援新制度」は、子ども・子育てに関する施策の大変革を目指したものであるとされています。すなわち財源システム（給付）の見直し、幼稚園と保育所の一元化（一体化）、

地域子育て支援事業の拡充、放課後児童対策、ワーク・ライフ・バランスの充実など、多種多様な内容が含まれています。

保育制度を言えば、当初国は幼保の一元化を目指したはずであったが、結局のところ三元化「保育所」「幼稚園」「新幼保連携型認定こども園」として選択制を残しました。

その結果、我々保育関係者は、選択を迫られ今後の方向性をあれこれ詮索しながら決断を要することが迫られることとなりました。

新保育所制度・新幼保連携型認定こども園制度に関して言えば、公定価格（保育単価）の概要がようやく示され、仮に来年4月から「新幼保連携型認定こども園」へ移行するのであれば、この秋にも所轄する市町村への意思表示が必要とされています。この新しい制度の是非を述べるつもりはありませんが、幼保一体化を反対と唱えてきた人たちは「保育所と幼稚園は目的が異なる」とする根拠をもとに、「両者の文化が異なる」とする理念があります。

保育関係者からすれば、「保育」とは保育所保育指針が定義する「養護と教育を一体的に提供するもの」として捉えています。しかし一般社会、保護者がイメージする「教育」と保育所が提供している「教育」とのズレが生じていることを認識しておかなければなりません。

保育所と幼稚園のそれぞれの文化を肯定し、二元化するのであれば、教育面における「保育所の教育」を、学校教育法レベルに位置づけ、法的に対等性を持たせる必要があります。

その観点からみれば、「児童福祉施設でもあり学校でもある」とする「新幼保連携型認定こども園」は、保育所がその対等性を担保する一つ的手段として捉えれば優位性があるのかもしれませんが。

ことさら国が唱える就学前教育を重要視し、その必要性を強調されている現在においては、保育所が新制度の保育所として存続するのであれば、今後「幼稚園」あるいは「幼保連携型認定こども園」を意識した「教育」を全面に出さざるを得ず、一面的あるいは観念的にみれば余計な努力を強いられることも予想されます。

今回の新制度導入の背景として、大都市圏の待機児童対策が大きな要因であり、その受け皿として幼稚園の保育園化すなわち新幼保連携型認定こども園の創設による保育の量の拡大を目指したものであるとも言わ

れています。しかし反面、少子化の実態は国全体の危機とも言われ、社会保障・人口問題研究所の将来推計は、2025年の年間出生数を約78万人としています。このことは今後12年ほどで、就学前の子どもの数が180万人減少することになると予想されています。

都市部の保育所待機児童の問題はマスコミ等で盛んに取り上げられています。幼稚園入園児童あるいは幼稚園の著しい減少は週上に挙がっていませんが、このことも留意しておかなければならないのではないのでしょうか。さらにはイコールフィッティングによる企業等による保育所への運営参入が続いています。そこから供給過剰による過当競争や不適切な児童獲得のために本来の「子どもの良好な育ちの場」としての保育・就学前教育がゆがめられることも懸念されます。

新制度で示された幼保連携型こども園は、現存の保育所、幼稚園、認定こども園が移行を望めば、市町村は原則として需給調整せず、施行後5年間はすべて指定されることが示されています。さらには、市町村はすでに過供給となっている場合を除いて、給付対象施設の指定、利用者認定、給付費負担などで利用者と事業者の間に直接介入することはなくなり、供給過剰の対応が問題となることも考えられます。

幼保連携型認定こども園は、実質内部類型を設けたことにより非常に複雑になり、事業者にとっても、利用者にとっても理解しづらくなりました。年齢、利用時間などによって分かれる1号認定・2号認定・3号認定などを始め、公定価格と上乗せ徴収の問題など従来ではなかった複雑さが加わることとなりました。

今回の子ども・子育て新システムは、「保育の量と質」への改善が大前提とされ、財源が「税と社会保障の一体改革」での平成26年度4月消費税8%、さらには平成27年度10月10%への増税分から充てられることになっています。しかし特に質の改善、すなわち職員配置の改善や保育者の給与改善など国が方針として示したとおりの財源が確保されたとはとても言い難いのが実情のようです。

また、地域型保育給付での小規模保育所（定員6人～19人）・家庭的保育事業（1人～5人）事業所内保育所・居宅型保育事業（ベビーシッター）など多様な形態の保育施設、事業も創設されました。これらは「保育の量や多様性、利用者の利便性」は担保されるものの、「保育の質」へは決して貢献するとは思えません。

これから保育事業者も、保育所として存続するのか、幼保連携型認定こども園へ移行するのか、早ければ来年4月へ向けて決断することが求められます。

各々が自らの保育事業の理念を再確認すると同時に現状認識と現実の運営をも含めた多面的な考察の下、新しい時代へ突入することになります。



# 第57回全国私立保育園研究大会 岩手大会に参加して

ひばり保育園 佐藤 比登志

第57回全国私立保育園研究大会  
岩手大会が、6月18〜20日に盛岡  
市で開催されました。「優しさは

「和の心」と題して岩手県釜石市  
出身の直木賞作家 高橋克彦氏の  
講演を戴きました。

生きる力を育む 震災から学び  
今を生き 未来を語ろう」をテー  
マに、全国各地から1,988名  
の参加があり、来年度開催地とな  
る鳥取県からは20名の参加があり  
ました。

2日目は4群に渡り25の分科会  
が開催されました。私は、第三群  
岩手からの発信「賢治の思いを語  
ろう」に参加しました。講演を戴  
いた賢治さんの弟の清六さんの孫  
の宮澤和樹氏の賢治の逸話は、有  
名な賢治が俯いている写真はベ  
トーベンを真似したものであるこ  
となど、非常に興味深く心に響き  
ました。

大会一日目、オープニングアト  
ラクションでは、国連教育科学文  
化機関（ユネスコ）の「無形文化  
遺産」に登録されている早池峰神  
楽が舞われました。神楽のリズム、  
笛や太鼓の音、足の踏み音、舞い  
手の動き、日本人の心を思い起こ  
してくれました。続いて開会式で  
は、保育功労賞表彰、行政説明、  
塚本秀一常務理事による基調報告  
が行われました。特別講演では、

この日は、懇親会において来年  
度の鳥取大会のPRも行いました。  
「みんな鳥取県に行きたいかー」  
と村島先生の音頭で、「鳥取県ウ  
ルトライズ」と題して、機知に  
富んだクイズを行い大盛況でした。  
大会3日目は、「残したい 伝

えたい 日本の歌」と題して、声  
楽家の安田祥子氏に講演とミニコ  
ンサートを戴き、子どもに歌い聞  
かせるときの心構えや、歌い方の  
アドバイスを話され、童謡、唱  
歌も披露されました。次々と奏で  
られる12の月ごとの歌に、私の心  
は、それぞれの月に飛んでいって  
しまいました。

そして、時期開催地PRでは、  
福田鳥取大会実行委員長を先頭に  
ロケットくれよんを率い、鳥取県  
のPR映像をバックに、しゃんしゃ

ん傘踊り、ゆるキャラのしろびよ  
ん、ピョン兎くんと共に歌って踊っ  
て、すっかりアピールできたので  
はないかと思えます。

今回の岩手大会は、飛行場での  
前日のお出迎えであったり、時期  
開催地である私たちに控え室を用  
意してくださったりと、全体的に  
人を喜ばせてあげたいというおも  
てなしの気持ちを非常に感じるこ  
とができた大会であったように思  
います。

さて、いよいよ来年度は、全国





私立保育園研究大会が、鳥取の地で開催されます。全国に向かって皆様の力を結集して、鳥取らしさが垣間見え、また、鳥取大会に参

加して良かったと言われるような大会になればと思います。皆様ご協力のほどよろしくお願いいたします。

# 各研修会報告 (5月〜7月)

## 第1回障がい児保育 研修会に参加して

美保育園 西川美佐絵

平成26年度鳥取県保育所(園)

第1回障がい児保育研修会が5月31日(土)福祉人材研修センター6月1日(日)国際ファミリープラザにて開催されました。

講師にNPO法人えじそんくらぶの高山恵子先生をお迎えして『発達障がいのある子どもの「本当」の理解と支援』というテーマで講演をしていただきました。発達障がいとは発達にアンバランスがあり、自分の努力では改善

しにくい生物学的な特性を持ち、日常生活での著しい支障が(適応障がいやストレス、人関係のトラブルなど)があると話されました。

高山先生は薬剤師であり臨床心理士、そしてADHDであり、両方の側面から具体的にたくさんの事例を聞かせていただきました。

ADHDの人は作業記憶(ルールややることを忘れる・時間、物、情報の管理が苦手・優先順位が決められないなど)に問題があり、ADHDのキーワードは「うっかり」である。そのことを本人が自覚しているか、他者が理解しているかが重要である。

私たち保育者はどうサポートし

ていくのか(言葉だけではなく視覚で訴える工夫・量より質・自信をつけるための成功体験を増やすなど)を学ぶことができました。

また診断名が重要ではなくそれぞれの子どもにあった対応の重要性を再確認しました。グレイゾーンではなく、「パステルゾーン」と言われた言葉はとても印象的でした。

私たち保育者は、特性を理解し親子のストレスを軽減できるように今後もよき支援者でありたいと思います。



## 「みる力」を基盤とした 幼児造形教育

保育士研修会

たから保育所 横野 邦恵

平成26年6月14日、琴浦町のまなびタウンとうはくを会場に鳥取県保育所(園)保育士研修会が開催されました。講師は昨年9月の保育士研修会にもご講演を頂きました、関西国際大学教育学部教育福祉学科 准教授 松岡宏明先生。参加者156名中リピーターは10名。私を含め松岡先生の話を初めてきくという参加者のため、昨年と重複する内容もお話して頂きました。

保育者に必要な「造形教育」力は、自らが「描く力・作る力」より、「みる力」が大事。描いたり、作ったりすることが得意な人ほど自分のセンスに呼び込むとするが、子どもにとって自己表現から外れてしまう。不得意な人の方が



子どもの力を引き出せる。自ら「描く力・作る力」は必ずしも「育てる力」に直結しないが、「みる力」は「育てる力」に直結する。また、アートとは、作品の中にあるものでなく、作品をみる人の間に起こるもの。

同様に個性は子どもの中にあるものでない、他者が見つけるもの。個性は見ている人が発見し、起こすもの。

子どもたちの代表的な表現方法の説明と共に「描く」活動の発達段階のお話もありました。具体的な例を聞きながら、自分の保育所の子どもたちの絵が思い出され、気づきや確認ができました。子どもたちそれぞれの年齢に合った今を経験させることが大切で、そのために物的環境を整えるだけでなく、人的環境が重要であることも実感。「子どもたちの絵は描いた後、お話して、完結。保育者は素敵な第一観賞者でなければならぬ。子どもの話をきっちり聞いて、

素敵な反応をする。質問攻めにならない。」「子どもの作品にアートを起こしていくのは保育者の役目。」と聞き、自らの保育を振り返り、

みる力の乏しさを反省。明日からの造形活動に向けて、この学びを活かしていかななくては…、園での造形活動（各年齢ごと）の見直しと、子どもの絵や作品を見る力を保育者同士学び合う場をもつことも考えていきたいと思いました。

印象に残る言葉をたくさんいただいた講演会でした。



## 主任保育士研修会

住吉保育園 岡嶋 信美

平成26年6月28日（土）倉吉市  
地域交流センターアゼリアホール  
に於いて、昨年度、主任保育士研

修会で好評だったKANSAIこども研究所長 原坂一郎先生をお迎えして「聞くだけで保育が楽しくなる話」のテーマで研修を受けました。ボードを使ってのライブ紙芝居・ひつじとウルトラマンの絵描き歌・手遊び・動物三角布を使っての遊びなど、見て楽しく、触れ合って笑えるもので実践にすぐ使えるような実技もたくさん披露して頂き楽しくあつという間に時間が過ぎていきました。

講演の中で、話されたのは、いろいろな人間関係があるが最初はみんな普通の人（子ども・保護者・職員）良くなるのも悪くなるのも向きあつてる人次第、子どもだったらクラス担任・保護者だったら

保育園の雰囲気・職場だったら園長、園長補佐、主任保育士のトップ3のあり方で職場風土が変わる。トップ3の中で明るい、やさしい、よく笑うの個性を持っている人が2人以上いると職場全体が広がっていくということでした。

また、保育・人間関係がうまくいくキーワードは、「認める」ということ。認めるとは①相手の実力を評価する②ありのままを受け止める 私たち保育士は、子どもの事を認めることに長けているが現実には認めてないこともたくさんある。子どもの言葉、行動に於いて〇まず認める（おうむ返し作戦、本当だね）そして次に〇でもねと話してやるのが大切。まず、ポイントはこちらが先に認める言葉をかける、認めると笑顔が出る、そして文句が減ると話されました。この研修で人と人をつなぐ笑顔の大切さ、そして自分の心の持ち方ひとつで笑顔になれることを実感しました。先生が書いておられる



コラムの中での『子どもは誰でも親を百回笑顔にしようとしている』が心に残りました。子どものかわいらしさ、育児の楽しさなど保護者に伝え笑顔でつながる保育園作りをしていきたいと思っています。



### 第1回乳児保育研修会

ゆりかご保育園 徂西 千夏

平成26年7月5日(土) 福祉人材研修センター、6日(日) 米子コンベンションセンターにて、大阪総合保育大学児童保育学部学部長 大方美香先生に、「保育の質の向上をめざす指導計画の立案」大切にすることを」という

テーマで講演していただきました。

「ヒトとして生まれ、ヒトとして生きていく子ども。子どもに必要な生きる力とは。何を視点として保育をしていくのか？」という話から始まり、「皆さんは、いつから椅子に座れるようになりましたか？」と問いかけられました。「座れるようになるには、何が育っていないといけないのか。0、1、2歳はヒトとして育つ土台を作る大切な時期です。」と話されました。

す。」と言われました。

「生後3か月頃に微笑み反応が表れます。笑う子は舌が動き口の中が発達していくので、舌が動かないということは食べにくいのです。だから、笑ってから離乳食が始まるのです。笑っていない子はいませんか。笑える子どもに育てて3歳になっていきますか。」○ちゃんの顔が浮かびました。今までの私の関わりは？私の表情は？反省させられる言葉でした。

また、クラスの人数、子どもの名前を1分間で書く演習をしました。名前がすぐ出る子、出てこない子…。自分の記憶の傾向性を知り、気づかなかったことに気づくことが大切で、書けなかった子とこれから自分がどう関わるのか。曖昧にしないで計画にくみこみ、意識して保育をすることが大切であると話されました。

ヒトがヒトに育っていく大事な生命。保育の中で、なにげなく関わるのではなく、保育士として子

どもの発達をおさえ、一人一人を丁寧に見て、育ちを援助していくことが大切であると感じた研修会でした。





### 第1回食育研修会に

### 参加して

めぐみ保育園 澤 恵

平成26年度鳥取県保育所(園)第1回食育研修会が7月12日(土)倉吉未来中心にて開催されました。講師に子どもが作る「弁当の日」提唱者 竹下和男氏を迎え、望ましい食習慣について講演を頂きました。

子どもは0〜7才は周りの大人の真似をするので、子どもの前ではして欲しいことをして、して欲しくないことはしない、そうでないと歩き始めたばかりの子が扇風機を足で付けてしまう、というお話を、思い当たるところがあり思わず目をつぶってしまいました。また、母乳は母の血液を与えているのと同じ大切なもので、母乳を与える際に見つめ合ったり話しかけたりすることで親子の絆が生まれるのだが、親が授乳の際にテレ

ビを見たり携帯を見たりする行動を子どもが真似をすると、親の言葉が無視する原点が生まれていくという話は、もっと多くの親になる人々にも伝えていくべきだと思います。これからの子育て支援は親子の絆が深まるようなサポートをしていくべきだというお話しは、まさにそのとおりだと思います。子どもが作る「弁当の日」も、いつも親に作ってもらっているお弁当を作ってみることで、親の気持ちに分かったり、ありがたさを感じたりし、横並びで作業をすることで目と目を合わせないので、日頃話せないことも自然に語れる空間を作りだして、親子の絆をサポートすることになるのだと分かりました。子どもが料理に関心をもち始めるのは5才がピークで、味覚の発達も3才がピークなので、今の保育園にいる子どもたちに色々な体験をおして知らせていくのが私たちの役割なのだと思います。

講演の中では『はなちゃんのみそ汁』の安武千恵さん、はなちゃん映像や、実際に子どもが作る「弁当の日」をされている小学校や中学校の様子を写した映像を見せていただき、とても心に残り、ぜひ鳥取県にも子どもたちが料理を続けられるそんな素敵な輪が広がってほしいと思いました。



### 初任・初級保育士研修会①

### 三徳山研修にて

育成保育園 柏木 克仁

今年も育み協会青年部主催の初任・初級保育士研修会が7月24日に三徳山皆成院で開催されました。当日は、初夏の暑さが厳しく、朝から30度を超えていました。冷房の効いた部屋が当たり前の日常ですが、その日常からかけ離れた環境での研修会でしたが、日頃気にしなかった風の心地よさや虫や鳥の鳴き声に癒されることに気づく研修会でした。

午前の講義は、住職の清水成眞氏による座禅・法話・写経を行いました。住職の法話では、人は自分さえよければいいと思う心があると自覚し、当たり前のこと(朝目が覚めること、目が見えること、声が聞こえることなど)ができることの大切さを実感することで、感謝する心が生まれ自分の心が豊





かになり、人々の為に何かしたい  
と思う気持ちが芽生えることを教  
えられ、ありがとうの気持ちを再  
認識し振り返るよい機会を持つこ  
とができました。



午後の研修は、10月に開催され  
る第3回目の研修会に講師をお願  
いしている、岩城敏之氏に「保育  
の見方、環境の見方」についての  
講義を受けました。核家族が増え、  
現代の子育ては大変ですので、1  
日の大半を過ごす保育園の役割が  
子育てにとって大切な位置づけに

あることを保育士は再認識し、保  
護者と連携しながら保育を行うこ  
とが大事である。よく小学校に繋  
げようとし、担任が子どもを大人  
の思うよう団体生活を押し付ける  
傾向にあるが、そうゆう子どもに  
限って、子どもがどうしてよいか  
分からなくなり、走るなど落ち着  
かない行動をとることが多く、小  
学校へ行っても集団生活に対応で  
きない子どもに育ってしまう悪い  
連鎖となります。基本に返り保育  
園の役割を再認識し、子どもが子  
どもらしく生活し、人間形成の基  
礎を培う重要な時期なので、自分  
を十分に発揮しながら活動できる  
よう支援していくべきではないか。  
子どもの主体性とは、子どもに自  
由を与えることと勘違いしがちな  
が、大事なのは自由を使いこなせ  
るように保育者がある場に合った  
援助と指導ができるよう日々考え  
ていかななくてはならない。この内  
容を踏まえて、第2回目の鳥取県  
内での保育園実習につなげてもら

い、第3回目の研修会では、自分  
が感じたことや疑問に思ったこと  
を話し合い振り返りができる研修  
会を企画しています。



### 「これからの保育を 考える」

#### 第2回施設長研修会

久松保育園 長谷 温子

平成26年7月25日、倉吉未来中  
心に於いて第2回施設長研修会が  
開催されました。平成27年度より  
いよいよ新制度が導入されます。  
新制度の導入について、今、私た  
ちはどのように考え、どのようにに  
対応していけばよいのか。関西大  
学人間健康学部教授であります山  
縣文治先生をお迎えして、「これ  
からの保育を考える」をテーマに  
ご講演いただきました。

まず、新制度が目標としている  
のは何なのか。(1)質の高い幼児期  
の学校教育、保育の総合的な提供  
(2)計画的な保育の量的拡大・確保・  
待機児童解消・人口減少地域の基  
盤の維持・確保(3)地域の子ども・  
子育て支援の充実です。

全国的に出生数が減少。少子化



と女性の就労化で幼稚園の利用者が減少していきます。それに伴い、認定こども園となっていく幼稚園が増えてきました。認定こども園とは、幼保連携型認定こども園があり、その中には、保育所型認定こども園、幼稚園型認定こども園、地方裁量型認定こども園に分類されます。認定こども園は、保育所でも幼稚園でもありません。児童福祉施設でもあり、学校でもありません。幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて保育します。国が基準を作り、条例で地域のバージョンに修正して使います。職員は保育教諭となります。就学前の教育の場となります。入所に関しては、保育の必要性のない3歳〜5歳は1号認定となり、8時間程度の保育の必要な0歳から5歳児を2号・3号認定とするなどの入園手続きも認定制度が導入されます。保育料については保育所は応能負担となり、決定者は市町村で、納付先も市町村で認定こども園と

なると事業者となります。新制度の目標であります質の高い幼児期の学校教育、保育の総合的な提供のできる施設となるように色々環境を整えておくことが我々の課題なのだと思います。



## 私の楽しみ

上井保育園 岩田 育子

みなさん、毎日お仕事お疲れ様です。この仕事をしていると、ゆっくり自分の好きなことをして過ごす…ということがなかなかできませんよ。毎日を仕事や子育て等で忙しく過ごされている方も、きっと多いと思います。

## 保育者の広場

さて、このコラムの原稿依頼を受け、「何を書こう?」「何を書いたらいいんだろう?」「と、すごく悩みました。そこで、『私の楽しみ』について書くことにしましたので、みなさん、少しの間お付き合いください。

私の今の楽しみの一つは、中学二年生の息子がしている硬式野球の練習を見たり、試合の応援をすることです。ユニフォームや顔が土まみれになりながらも、一生懸命ボールを追いかけたり、真剣な表情でボールを投げたりバット振ったりしている姿を見ていると、ますます応援してやりたいくなりますし、息子から頑張るぞという気持ちかわいてくるような、すごいパワーをもらっているように思

ます。毎日の仕事に頑張れるのも、きっとこの不思議なパワーのおかげかな?なんて思ったりもします。

硬式野球を始めたことで、私たち親子の生活はがらりとかわりました。土日、祝日は休みなく一日中野球をするのが当たり前。クタクタになりながらも弱音を吐かずに頑張ったり、泣き虫だったのに泣くのをこらえて声を出したり…と、少しずつですが我が子なりの成長を感じています。こんなとき、いくら忙しくても今しか味わえない幸せな時間なんだろうなあ…と思ったりもします。

人それぞれ自分の時間の過ごし方や楽しみが違う中、これが今の私の楽しみです。硬式野球を通して新たに出会ったたくさんの保護者や子どもたちとの時間、そして我が子との時間を、これからも大切にしていきたいと思っています。

自分の時間の充実や、気分転換ができてこそ、また次の日からの保育が頑張れる…と思いつつ、日々楽しく過ごしています。

みなさんも楽しみを持ちながら、素敵な笑顔で毎日楽しく過ごしていきましょう。





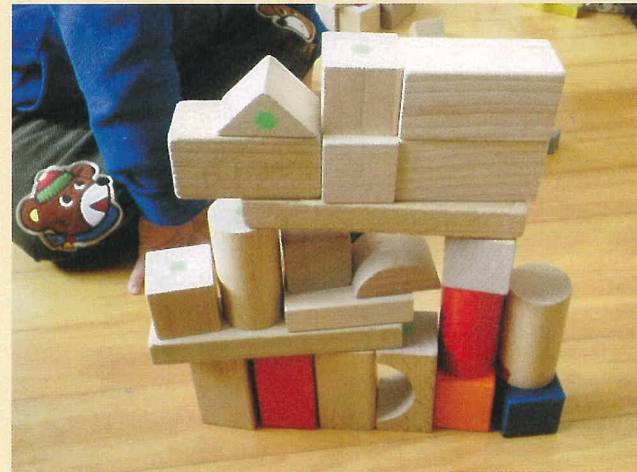
第3回目の「おもちゃ遊び」です。

今回のテーマも前回に引き続き、積み木です。

積み木というとその遊びは、遊び手である子どもが思い思いに積んだり、並べたり、色々な形を用いて何かしらを作るといった自由奔放なイメージがありますが、実はこの遊びは子どもの成長や発達に応じて遊び方がある程度定まった変化をします。

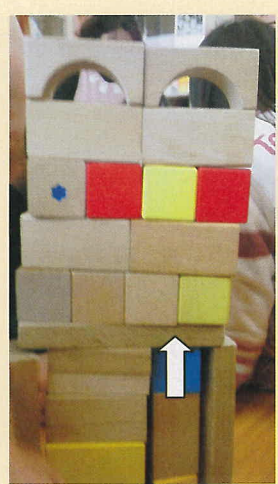
前回は2歳前後の積み木遊びの特徴である横に「つなげる」、「並べる」そして、見立てる遊びまでを綴りました。そして今回はその続きです。2歳を過ぎ、横に「つなげる」、「並べる」等の遊びを経て、またしばらくすると縦に積み木遊びが見られるようになります。しかしこの時の積み方は、1歳の

時のような1本の柱状の積み方ではなく左写真のようにかなり安定の良いものです。この積み方を「壁」の積み方と呼んでいます。



この「壁」の積み方には写真にも見てとれるように同じ形を組み合わせるという序々に規則性、構成の要素を帯びて来ます。この「壁」の積み方のプロセスを経て、いよいよ決定的な規則性に基づく積み方に変化成長します。

その丁度、過渡期ともいえる3歳過ぎの作品(左写真)をご覧ください。写真中の矢印より下は「壁」の積み方ではありますが、矢印より上は見事な左右対称形になっています。



目安として3歳過ぎてからの積み木遊びの一番の成長表現としてはこの左右対称の積み方を私はあげます。

私たち大人も積み木やブロックで何かを作ろうとする時、左右対称などのバランスを自然に考えているような気がします。その感覚の芽生えは3歳過ぎからと言えます。

(積み木のセットは基本的に各形が偶数個で入っています。)

この左右対称形の積み方を経て、積み木は子どもの遊びの中で更なる変化をします。

その遊びが「創る」、「創造」の遊びではありますが、私自身、出会ったある子の言葉にその遊びの本質を教えられた気がした出来事がありました。

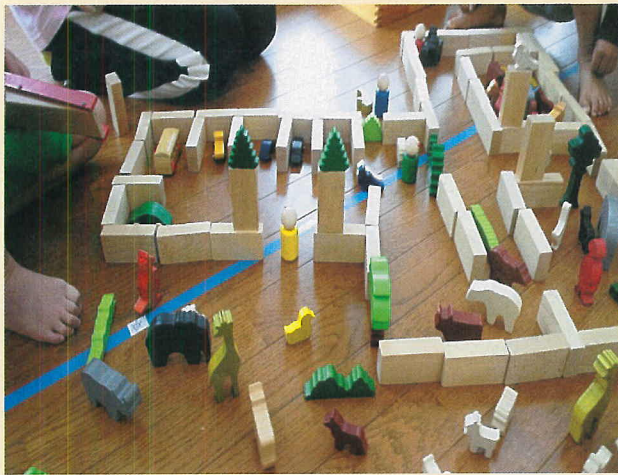
その子の言葉を借りて積み木遊びの「創造」の遊びについて積み木編のまとめとして綴ってみました。

その日は保育園の園児さんたちと私が持っていたおもちゃで遊びました。その遊びの後、遊戯室にみんなで集まり感想を聞くという機会を得ました。

いろいろな年齢の子どもたちからの感想を聞くことができました。その中で、年長児の男の子が、「動物園で遊んだことが楽しかったです。」と感想を述べました。

この感想を述べてくれた子は積み木コーナーで動物のミニチュアと積み木を使って夢中で遊んでく





れていたのに特に印象がありませんでした。  
 しかしここで思ったのは、なぜその子は「動物園をつくったことが楽しかったです。」と言わなかったのでしょうか。  
 ひょっとするとその子自身、動物園の世界に入り込んで遊び、そして楽しんでいたのではないのでしょうか。  
 だとしたらその子はどんな動物園を創ったのでしょうか。  
 きっと自分が行ってみたいよう

な、そして自分で遊んでみたいような、そんな動物園を創ったことでしょうか。  
 いわば積み木は自分の思う世界を創る素材となった訳です。その遊びは正に創造の遊びといえるのではないのでしょうか。

**お問合せは**

木のおもちゃ専門店「木や」  
 米子市米原ホープタウン2階  
 電話 0859 (38) 7339

**<絵本の紹介>**

**「にんじゃべんとう」**

文 木坂 涼  
 絵 いりやま さとし (教育画劇)  
 ISBN : 978-4-7746-1196-9  
 定価 900円(税別)



子どもたちの大好きな「にんじゃ」と「おべんとう」が出てくる楽しい絵本。

美味しそうなにんじゃたちが、不思議な忍術を使って冒険しながら、にんじゃべんとうの完成をめざします。

きつねの湯に入って、にんぼういい湯だな～の術を使えば、こんがりさくさくコロッケのできあがり。その他にもいろいろなおかずたちが、森のなかでかくれんぼの術を使って隠れているかも。

テンポのいい文章と、ほっこり可愛い絵が、

さらに魅力的な一冊です。

読み終わったらにんじゃごっこをしたり、おべんとうづくりをしてみるのも楽しそうですね。

**「ボールペンでかんたん！  
まねするだけで四季のプチかわ  
イラストが描ける本」**

著 イラストレーター カモ (メイツ出版)  
 ISBN : 978-4-7804-1217-8  
 定価 1,200円(税別)



見て、まねて、描いてみると本当にかわいいイラストが出来ます。

絵に自信がなくても何だか上手になった気分。

四季折々のイラストがあるので保育に役立つこと、間違いありません!!

さあ、カラーペンを用意して描いてみませんか？



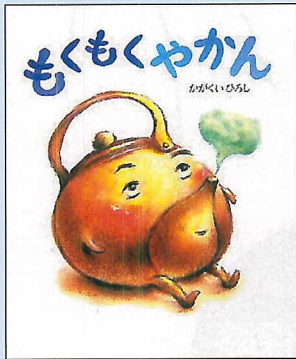
### <絵本の紹介>

#### 「もくもくやかん」

文・絵 かがくいひろし（講談社）

ISBN：978-4-06-132353-7

定価 1,500円(税別)



大地が干上がったある日、やかん、ポット、じょうろ、きゅうすが集まって準備体操。みんなでがんばって恵みの雨を降らせるお話。生き物たちが、一粒一粒の雨に驚き、喜ぶ姿ややかんたちが一仕事終えてくつろぐ姿がユー

モラスで絵の温かさにもほっこりします。

読み手も聞き手も楽しく、みんなに笑顔がこぼれます。小さな子どもから大人まで楽しめる絵本です。

### 「死を招いた保育」 ～ルポルタージュ上尾保育所事件の真相～

著 猪熊 弘子（ひとなる書房）

ISBN：978-4-89464-168-6

定価 1,600円(税別)



平成17年に上尾市立上尾保育所で実際に起こった幼児死亡事件についての本です。

あまりにも衝撃的ですがこれは、決して特殊な事件ではなく、どここの保育園でも起こりうる「人災」である。

思い込みやすれ違いなどから、子どもの命を奪ってしまった…

『いのち』の重みを背負った保育の質を問う内容です。

職員・親・行政様々な人間関係・立場・環境などもう一度自園・自分を見つめなおすことにつながる本です！

読みはじめたら止まりません。

明日起こるかもしれない子どもの危険を回避するためにもしっかり保育者の一人として考えたい1冊です。



最近、フツと感じる事…子どもたちの笑顔とつぶやきに、心癒される保育士という職業に付けたことを心から感謝…。今年の夏も、ご飯がおいしく元気で過ごせた自分に感謝…。これからも、色々な、たくさん感謝を感じて過ごしたいと思う今日今頃…です。

(T・H)

今号から紙面をA4サイズにリニューアルしました。保存、ファインリングに適した大きさになりましたので、研修や各種資料等に活用いただければ幸いです。

(M・M)



今年の夏もわが子と24時間TVを視聴。

今回のテーマは『小さなキセキ、大きなキセキ』でした。

TVを通して、たくさん奇跡を見ることができ、我が二人の娘に自分にとって奇跡は？と問うと姉「うまれてきたこと！」…と感動し、

妹「スイカにタネがなかった！」と(笑)でした。

それぞれのキセキに愛を感じました。

(M・N)

通勤途中に車窓から見える海の水平線、反対側には緑の山々。よくある風景ですが日々の見え方が違い、広大な地球と自然の美しさを感じます。心をリセットし一日の始まりにすっきりした気持ちになれます。今日も一日頑張るぞ！と…。

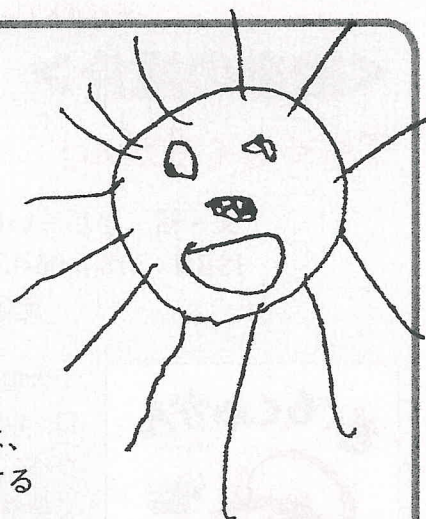
(M・Y)

何十年ぶりに京都へ。記念にちよつと奮発して上等の団扇を購入。扇いでは「おこしやす。」娘には笑われますが、気分は京美人!?

(C・N)



# 保育園および園児を さまざまなリスクから サポートします



保育園経営には、さまざまなリスクが伴います。  
(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、  
保育園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する  
各種保険を取り扱っております。

## 全私保連 保険制度

「保育園賠償責任保険」  
「保育園児団体傷害保険(学校契約団体傷害保険特約付帯普通傷害保険)」  
「特別保育事業賠償責任保険」  
など、保育園経営におけるリスクに関する保険を  
ラインナップしています。また、それらを総合的に  
補償するセットプランもご用意しております。

## 園児総合保障 共済制度

保育園児を24時間補償する  
共済制度(こども総合保険)です。  
保育者にとっては一般契約に比べて  
団体契約による割引の適用で割安な掛金で  
補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。  
ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定・東京海上日動火災保険株式会社代理店

### 有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内  
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

〈引受保険会社〉  
東京海上日動火災保険株式会社  
担当課：公務第二部 公務第一課  
TEL：03-3515-4134

このご案内は全私保連保険制度・園児総合保障共済制度の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

